

「殺生石」物語考

物語の概略⑧

耆婆によって天竺を追われた白面金毛九尾の狐は、再び中国の「周」王国に潜む。殷の紂王を亡ぼした周の武王から数えて、十一代の幽王の時であった。周の幽王も又、殷の紂王のように、暴逆で政道を乱す王であった。褒珣という賢臣が諫めると、幽王は怒って彼を囚えた。そこで、子息の褒洪は、褒城という地より、十四歳の清麗の美女を買ひ受け、幽王に献上した。父褒珣と呼ばせ、朝夕姪樂に耽った。これにより、政は忽ち荒んだ。

これより二十二年前のこと、幽王の先々代の厲王が妲己の墓を暴いたことがあった。この時、居あわせた七歳の女兒が、男もないのに身ごもり、十八年後に子を産んだ。それが褒姒であった。彼女は決して笑うことがなく、幽王は彼女を笑わせ、楽しませたいと思った。

周国には、皇城の外五里ごとに烽火臺があった。それは、万一、帝都が敵軍に包囲された際には烽火で知らせ、四方の諸侯の兵を招集するためのものであった。



筆者 前那須歴史探訪館 館長

齊藤 宏壽 先生 (湯本在住)

今月のひとこと

メタボ腹ゆすりて挑む運動会

児に急かされて校庭走る

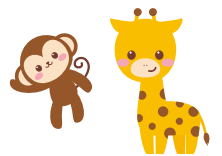
かつこう

「仲秋の名月、十年に九年は見えず」今年の十五夜もその言葉とおり生憎の曇り空だった。十五夜は中国から伝わった風習だが、日本には旧暦9月13日に「のちの名月」としてもう一度お月見をする独自の風習がある。満月ではなく、これから満ちていく十三夜の月を愛でるのが日本人の感性だったのかもしれない▼昨年12

月、町は「どぶろく・ワイン特区」に認定された。これにより農家が自分で栽培した米でどぶろくを製造した場合、一升瓶に換算すると年間3千本以上製造するという酒税法の基準が撤廃される。少量での製造販売が可能となり、農家民泊への活用など、観光と農業を連携させた地域活性化に繋げていく考えだ▼8月末にはどぶろく入門講座がJANAなので開催され、予想を上回る生産者が参加した。製造方法

の習得、様々な条件をクリアし免許を取得することから事業化への道は遠いが、関心の高さが伺え今後の取組みにも期待でき、足りないものにもそれぞれ美しさや魅力がある。初めて搾る自家製の濁り酒は少し未熟で、もしかしたら欠けた月に似ているかもしれない。それでも、「十三夜に曇りなし」という言葉もある。どぶろくを活用した町独自の未来が明るいことを願う。

こんにちは 赤ちゃん



池澤 凛歩 ちゃん
(川原町)

平成29年
12月4日生

父 博之さん 母 昭枝さん

凛歩ちゃんは…

4人兄弟の末っ子、にぎやかにたくましく成長中です!

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

町の世帯と人口

(9月1日現在・住民基本台帳)

()の数字は前月比

・世帯数 10,288世帯 (-2)

・人口 25,369人 (-25)

男 12,586人(-6) 女 12,783人(-19)

あなたの「声」を聞かせてください

地域の身近な情報や、広報「那須」の感想・ご意見をお待ちしています。お名前と連絡先とともに下記までお寄せください。